

## ■遺物

A区では奈良時代末～平安時代頃の土器、B区では鎌倉時代後期～室町時代頃と考えられる土器や木製品、石製品が出土しています。具体的には、A区からは須恵器の壺蓋や甕、土師器の鍋が出土し、B区からは青磁や白磁、珠洲焼の擂鉢、被熱痕跡がある土師質土器の皿、用途は不明ですが何らかの製品の一部と思われる木製品などが見つかっています。

その中でも注目されるのは、B区から見つかった木製品です。これらの木製品は大半が何らかの製品の一部と思われるもので、生活用具の一部ではないかと考えています。特に写真⑧の木製品は特徴的で、新潟市南区馬場屋敷遺跡に類例がある『題箋軸』（見出し部分を外側に作り出した巻物の軸）の可能性もあります。

これらの木製品はすべて井戸の中から見つかりました。壊れた製品の一部等を少しづつ井戸に廃棄していた可能性があります。

A・B区出土土器・陶磁器類



①須恵器 壺蓋 (A区出土)

②須恵器 甕 (A区出土)

③珠洲焼 擂鉢 (B区出土)



④青磁・白磁 (B区出土)

⑤須恵器 無台杯など  
(R4 試掘で出土)

⑥土師器 鍋 (R4 試掘で出土)

B区出土木製品



⑦井戸3から出土した木製品

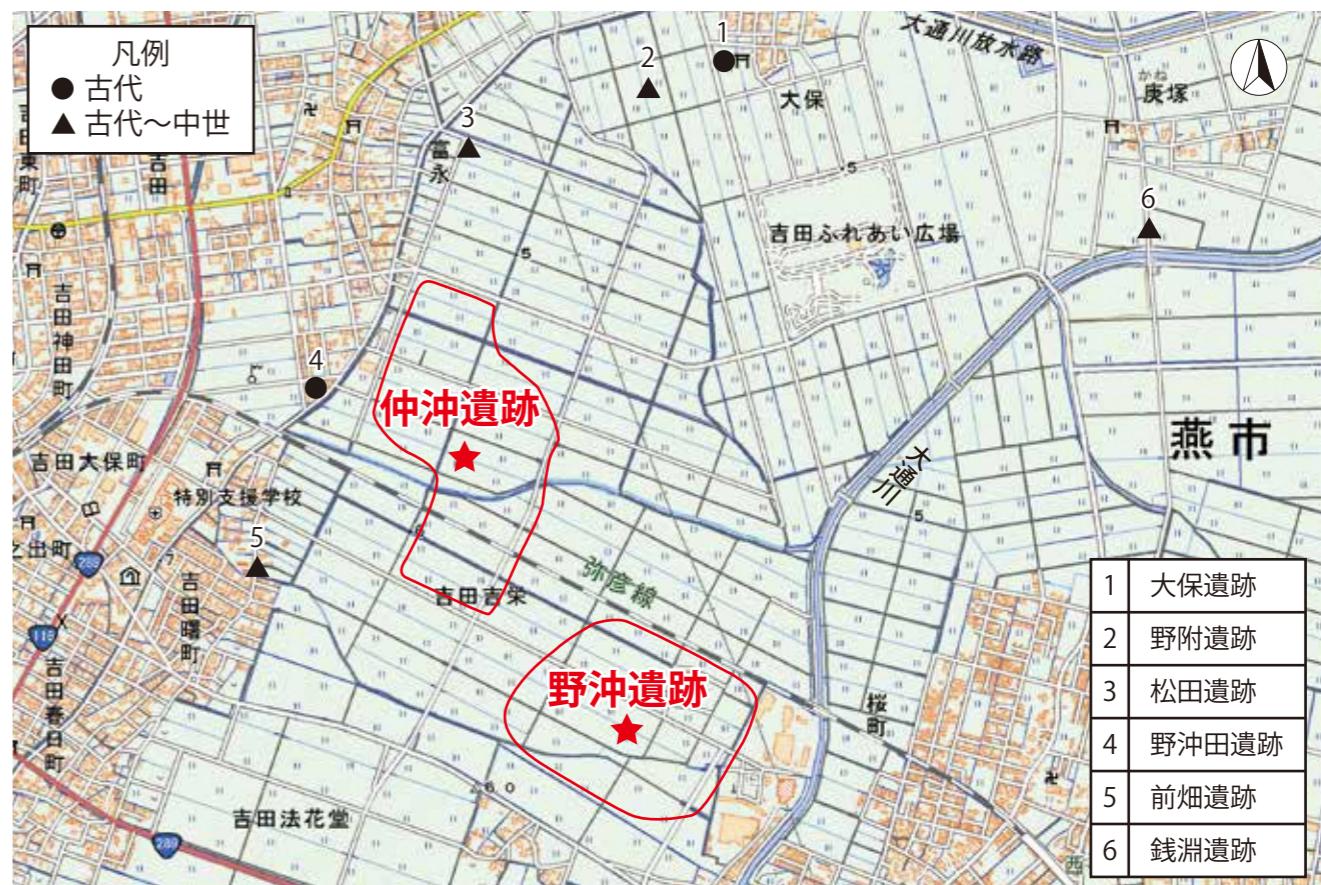
⑧題箋軸か

⑨先端が加工された木製品

# 燕市 野沖遺跡・仲沖遺跡 現地説明会資料

令和7年10月4日(土)

主催：燕市教育委員会



国土地理院 電子地形図 25000「越後吉田」使用

遺跡位置図

## ■日本の時代年表



## ■遺跡と調査の概要

野沖遺跡・仲沖遺跡は、燕市富永・吉田吉栄・吉田法花堂にまたがって所在する古代～中世（約1200～700年前）の遺跡で、大通川左岸の沖積地に立地します。

県営ほ場整備事業に伴い、令和元年度から事業区内の分布調査（現地を歩いて遺物を採集する調査）や試掘・確認調査（小規模発掘により遺跡の有無や内容を確認する調査）を実施しています。その結果、野沖遺跡は南北約400m、東西約500m、仲沖遺跡は南北約700m、東西約450mに及ぶ範囲であることが判明しました。

仲沖遺跡は令和5年度に別地点の本発掘調査を実施しており、そこは平安時代から中世にかけての集落跡だったことが分かっています。また、野沖遺跡では過去に「若」と書かれた墨書き土器が数点採集されており、有力者の存在が示唆されています。

今回は、野沖遺跡1,264m<sup>2</sup>、仲沖遺跡295m<sup>2</sup>を調査します。調査中のため不明点も多くありますが、当時の当地域のくらしや、周辺遺跡との関係を考える手がかりが見つかることが期待されます。

## ■遺構

発掘調査区は、野沖遺跡内のA区・B区、仲沖遺跡内のC区と3つに分かれており、現況の標高は約5mです。現在はB区の調査が終了し、A区の調査中で、C区は10月上旬以降に調査を始める予定です。

今までの調査で、A区からは奈良時代～平安時代頃、B区からは鎌倉時代後期～室町時代頃の遺構・遺物が見つかっており、A区とB区には時代差があると考えられます。

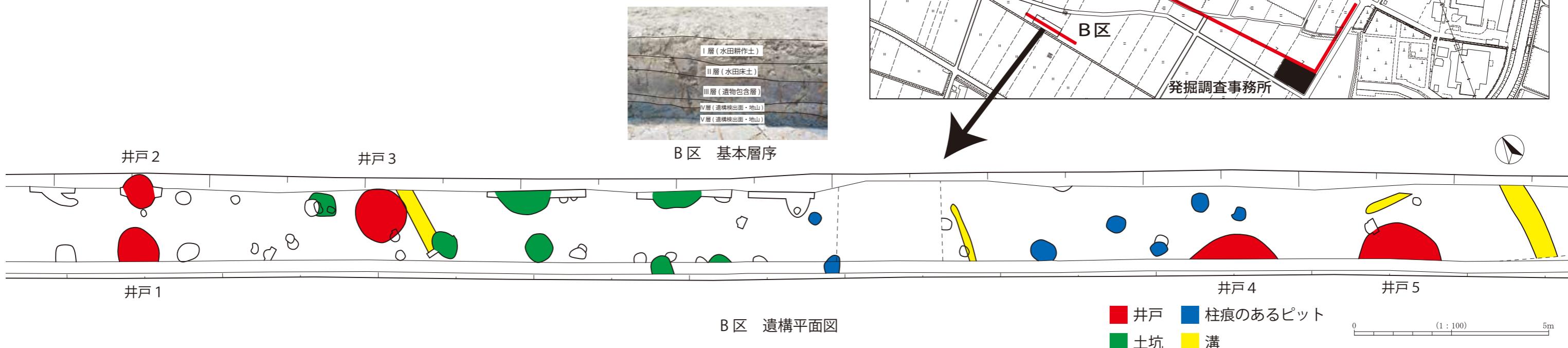
今回は調査が終了したB区をご見学いただきます。B区は幅約2.5m、長さ約80mで、東西に長い調査区です。地層はI～V層が堆積し、I～II層が現表土（水田耕作土）、III層が中世の遺物包含層、IV・V層が遺構確認面です。

B区では井戸・土坑・溝跡・柱穴を中心に、70基ほどの遺構が見つかりました。その中で特徴的なのは、井戸と考えられる遺構です。径1.3～1.5m、深さ1m程度の井戸が、5基見つかっています。これらの井戸は、地下の透水層を掘り抜いており、水が常に底から湧き出しています。

井戸の中からは時代が分かる遺物も見つかっており、井戸1（写真①）からは、中世（鎌倉時代後期～室町時代初期頃）の土師質土器の皿（写真②）が見つかりました。これらの土器には被熱した痕跡が確認できるものもあります。

また、井戸3からは、最下層の腐植土の中から多くの木製品が見つかりました。これらの遺物は井戸が埋まる過程で廃棄された可能性があります。

井戸や柱穴が多く見つかることや出土遺物の年代から、野沖遺跡のB区周辺は、中世の集落跡だったと考えることができます。



①井戸1の土層断面



②井戸1から出土した土師質土器の皿  
(写真①のa 被熱痕跡がある)



③井戸3の土層断面



④井戸3から見つかった木製品  
(写真③のb)



⑤井戸4から見つかった石製品